

新空港線「蒲蒲線」活動報告

1. 新空港線とは	1ページ
2. 活動状況	4ページ
3. 今後の流れ	7ページ
4. 沿線まちづくりについて	8ページ
5. 最後に	10ページ

大 田 区

新 空 港 線 の 効 果 に つ い て



蒲田と京急蒲田間の
800mがつながると

区内の東西移動が便利に

ゼロカーボンシティ
への貢献

大きな
経済波及効果

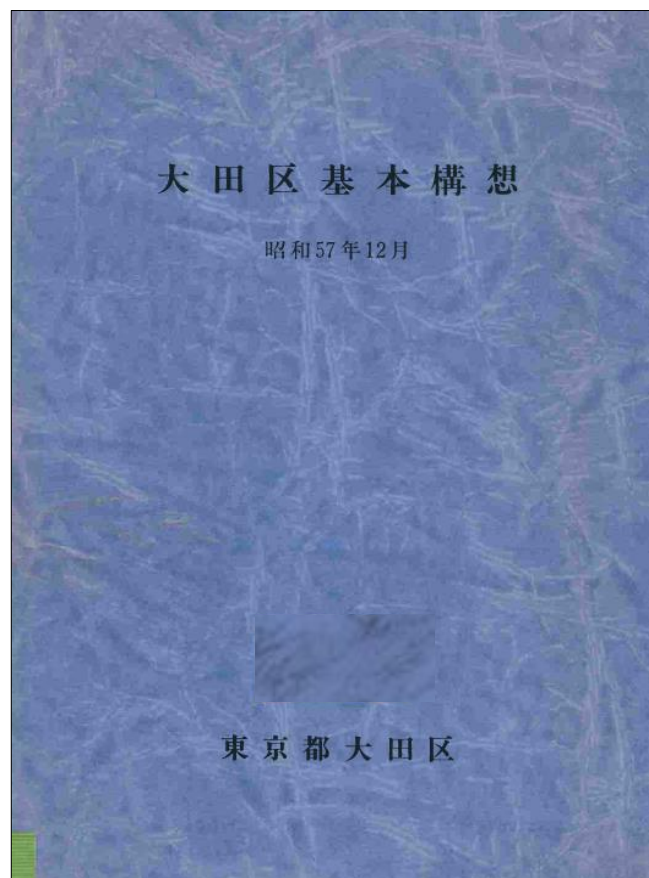
災害時の代替ルートの確保

羽田空港や、渋谷、新宿、池袋方面へのアクセス向上

沿線のまちづくりを行うきっかけとなり
まちが賑わい、地域の活性化につながります！

新 空 港 線 構 想 の 誕 生

大 田 区 基 本 構 想 昭 和 57 年 12 月



2 住みよいまちの基盤づくり

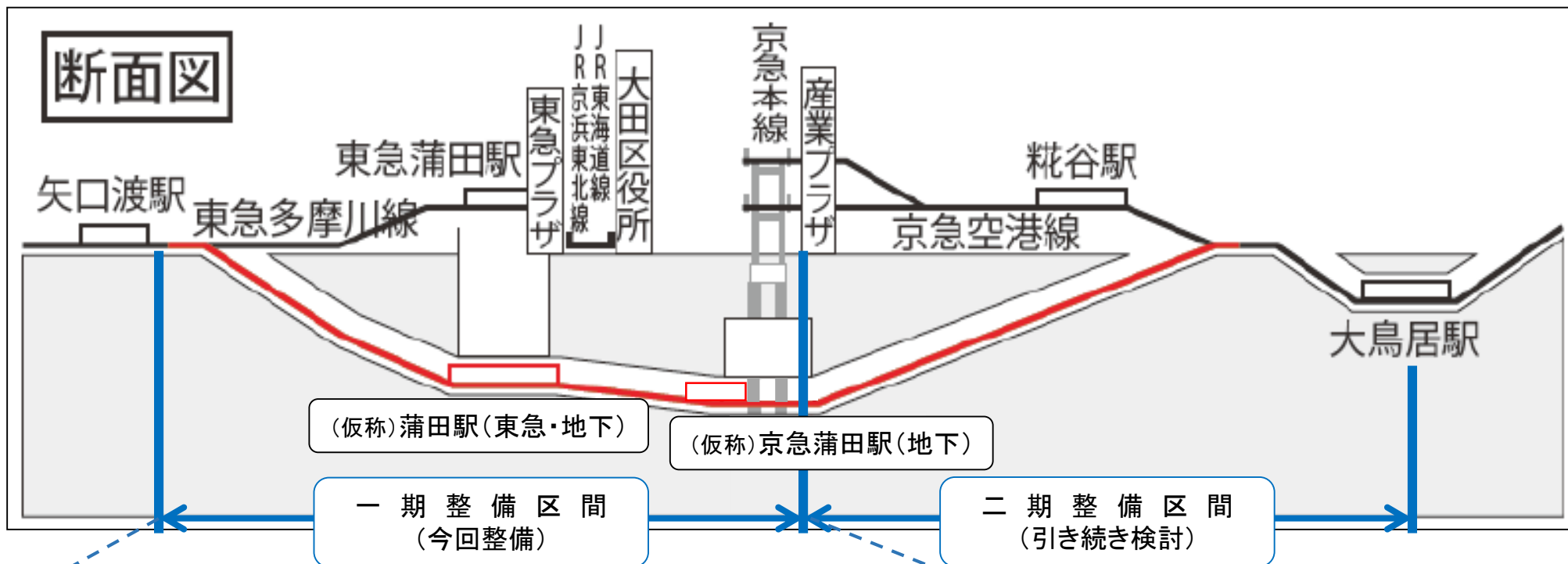
(1) 交通体系

区内の東西方向を連絡し、かつ、新羽田空港とその他の埋立地に至る新交通システム等を含む鉄道網の整備を促進する。

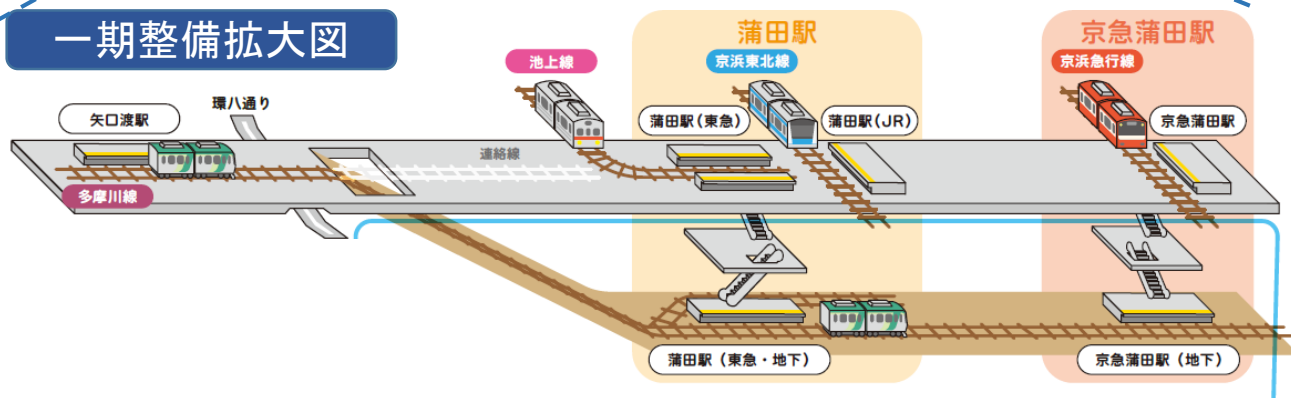
また、鉄道との相互補完関係と都市計画道路、駅前広場の整備状況を勘案しながら、バス路線網の整備を促進する。

区内の東西方向を連絡し、かつ、新羽田空港とその他の埋立地に至る新交通システム等を含む鉄道網の整備を促進する。

新 空 港 線 の 概 要



一期整備拡大図



【参考】第198号答申

「矢口渡から京急蒲田の
(～略～)合意形成を進
めるべき」

→ 一 期 整 備

「大鳥居までの整備につ
いては(～略～)検討が
行われることを期待」

→ 二 期 整 備

関係地方公共団体の合意形成

令和2年9月に、東京都と大田区で

「新空港線及び沿線まちづくり等の促進に関する協議の場」

を設置

第1回 R2.9.3

協議の進め方の確認 他

第2回 R3.1.22

乗換え利便性について
事業費の縮減について 他

第3回 R3.3.31

乗換え利便性について
事業費の縮減について
複数案の比較 他

令和4年6月6日

東京都と大田区で合意

第5回 R4.6.3

需要予測、収支採算性等
の精査結果の確認

第4回 R3.12.23

検討状況の確認 他

合意内容(要約)

- 地方自治体が補助する部分の負担割合について、都が3割、区が7割とする。
- 特別区都市計画交付金制度の対象事業とすることができるよう、都と区は調整を行う。
- 京急蒲田から大鳥居までの整備について、都と区は実現に向けた関係者による協議・調整を行う。

第三セクターの設立について

第三セクター設立に関する協定の締結

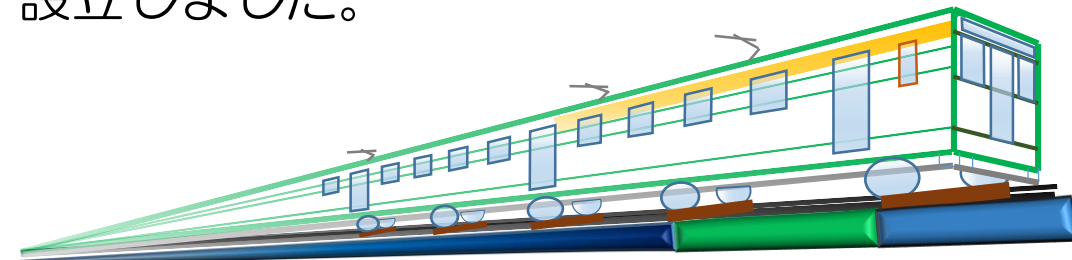
令和4年9月に大田区と東急電鉄は、新空港線の整備主体である第三セクター設立に関する協定を締結しました。



協定締結の様子

羽田エアポートライン株式会社の設立

令和4年10月14日に、新空港線を整備する会社である、羽田エアポートライン(株)を設立しました。



商 号：羽田エアポートライン株式会社

事業内容：鉄道事業法に基づく

第三種鉄道事業

設立時の出資比率：大田区 61%

東急電鉄39%

新空港線整備事業における費用の仕組み

都市鉄道利便増進事業

電車を走らせる会社
= 営業主体(鉄道事業者)



東急電鉄(株)を想定

線路や駅などの使用料を払う

線路や駅などを貸し出す

線路や駅をつくる会社
= 整備主体(第三セクター)



羽田エアポートライン(株)

借入金は
使用料で返済

国の補助金
1/3

地方自治体の補助金
1/3

都3割

区7割

整備主体の負担分
金融機関からの借入金
株主からの出資金
1/3

整備資金の内訳

東京都と合意した部分

【東京都からの財源などを活用】
特別区都市計画交付金の対象事業とすることができるよう、都と区は調整を行う。

3. 今後の流れ

羽田エアポートライン(株)が
鉄道事業を行うための認可を取得
↓
都市計画決定などの様々な手続き
↓
工事に着手
↓
一日でも早い開業を目指します

一期整備区間の開業

工事

工事着手

認可の取得

手続き

羽田エアポートライン(株)設立

新空港線「蒲蒲線」の早期実現に向けて全力で取り組みます！！

4. 沿線まちづくりについて



鉄道の整備と沿線まちづくりは車の両輪であり、新空港線の整備効果を最大限に引き出し、新空港線と沿線まちづくりの双方による相乗効果を生み出すことができるよう、まちづくりを推進する。



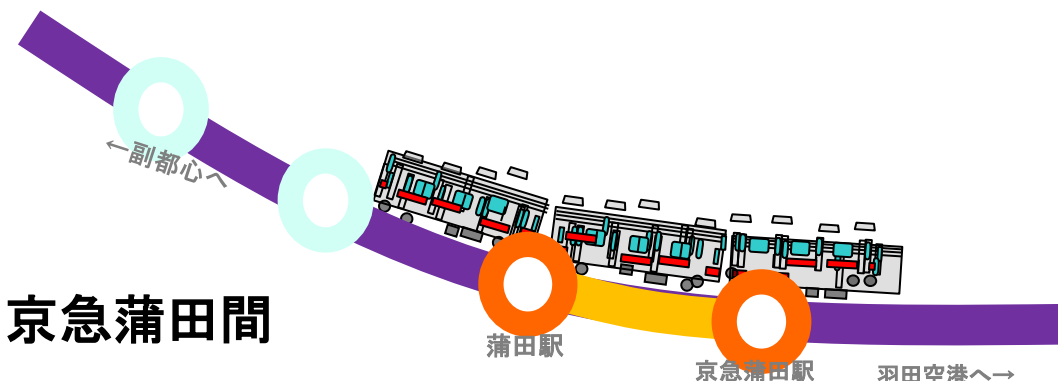
(仮称)「新空港線沿線まちづくり構想」

新空港線及び蒲田駅周辺の将来イメージ動画



※本動画は大田区独自の案であり、関係者合意が取れたものではありません

5. 最後に



区ではこれまで、新空港線の矢口渡～京急蒲田間の計画、事業内容、費用面の検討を進めてきました。

今後は、整備主体となる羽田エアポートライン株式会社が事業着手に向けて具体的な計画を加速度的に進めていくことになります。

区は引き続き、新空港線の1日も早い実現に向けて羽田エアポートライン株式会社と取り組んでまいりたいと考えております。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。